

時代遅れは最先端

一九八〇年代、私は中学生だった。当時レコードやカセットテープを友達と交換して聴いたものだ。そのうちCDの登場でレコードが廃れ、カセットもMDに代わり、ラジカセが世の中から消えていった。ところがアナログの魅力に気づいた若い世代でいま、アナログがひそかなブームになっているらしい。流行は三十年を周期に繰り返す傾向にあるという。



現

在の日本は、二十年以上もデフレを脱却できない状態が続き、自信を喪失している気がする。しかし、一九九〇年前半までは、日本経済や企業運営などを世界が手本とした。会社のためにと、みんなが元気に働いた。ヘトヘトになるまで働いた。会社側も、昇給、ボーナス、終身雇用、福利厚生、社員寮や社宅、保養所、運動会、懇親会など、さまざまな形で社員の頑張りに報いた。経営者は社員を信じ、社員は経営者を信じ、お互いを家族のように大切に

商品をも、日本が低価格で提供してくれたので我々は便利な暮らしができる」と。日本は国民が一生懸命に働くことで、おのずと世界に貢献していたのだ。

し、「この会社に尽くして、骨を埋める」と日夜励んだのだ。伸びた会社は社員がまとまり、活き活きと働いていたのだと思う。日本人は古くから「はたらく」ことは「傍を築にする」という価値観を持っている。働くことが社会貢献につながると考え、どんな仕事に対しても、働くことに喜びを持って取り組んできた。

バブル崩壊後、当時の経営者たちは会社を立て直そうと必死になって勉強した。その結果、日本型経営は時代遅れ、世界に習えという風潮が出てきて、「世界標準」という言葉の下に会社の改革をおこなっていった。しかし、その過程で良かったことまで捨て去ってしまった気がしてならない。

二

百五十万社余りある日本の会社の約七割が赤字経営である。赤字や、それに近い状況の中で働いたことがあるだろうか。私は社員時代に何年も経験したが、本当に必死だった。終電で帰れば御の字。休日出勤は当たり前。そもそも会社が潰れかかっているのだから、給料が遅れる、出ないこともある。減給や残業代が出ないのは至極当然。固定給が貰えるのは、業績が上がっているからであって、当たり前じゃない。会社は常に完全歩合制なのだ。

弊社は、この十二月で設立十四年目を迎える。ノー残業日の設置、有給休暇取得の奨励、就業時間の短縮指導、育児社員の時短勤務など、業績とともに改善できた。会社の状況というものは、天気のように日々急転するのだ。業績の良いときも悪いときも、常に職場環境の良さを要求するのは、少々子供じみているのではないか。ピッチのときには、ここが正念場という心構えを持って、能力を発揮し、必死に戦う人が必要だ。業績を伸ばせば環境も良くなる。日本には百年以上続く企業が二万六千社以上ある。常に順風満帆ではなかったはずだ。世の波風に対して、社員が一丸となって乗り切ったからこそ、続いているのだ。広く見れば、国だって同じである。世界に誇る社会保障も日本という国があつてのものだ。何事も三十年周期と考えるならば、いまがまさに日本の正念場なのではないか。国をまもるのも、会社をまもるのも、そこに誰がいるかで決まるのだ。三十年前の強い日本は時代遅れではなく、まさに今、最先端なのである。

その結果、一九九二年、マレーシアのマハティール首相が欧州・東アジア経済フォーラムで「もし日本なかりせば」と演説した。「世界中の人々の暮らしを便利にする

商品をも、日本が低価格で提供してくれたので我々は便利な暮らしができる」と。日本は国民が一生懸命に働くことで、おのずと世界に貢献していたのだ。

弊社は、この十二月で設立十四年目を迎える。ノー残業日の設置、有給休暇取得の奨励、就業時間の短縮指導、育児社員の時短勤務など、業績とともに改善できた。会社の状況というものは、天気のように日々急転するのだ。業績の良いときも悪いときも、常に職場環境の良さを要求するのは、少々子供じみているのではないか。ピッチのときには、ここが正念場という心構えを持って、能力を発揮し、必死に戦う人が必要だ。業績を伸ばせば環境も良くなる。日本には百年以上続く企業が二万六千社以上ある。常に順風満帆ではなかったはずだ。世の波風に対して、社員が一丸となって乗り切ったからこそ、続いているのだ。広く見れば、国だって同じである。世界に誇る社会保障も日本という国があつてのものだ。何事も三十年周期と考えるならば、いまがまさに日本の正念場なのではないか。国をまもるのも、会社をまもるのも、そこに誰がいるかで決まるのだ。三十年前の強い日本は時代遅れではなく、まさに今、最先端なのである。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
Murodate Isao

1971年青森県に生まれる。2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。2007年ブータン王国立マネジメント大学にて講演。就活支援「プレミアムスタイル」は2016年4月入社の内定率99.22%を達成。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「仕事で結果を出す人の頭の中」(しのめ出版)がある。